

福島民報

2014 (平成26) 年
3月23日
日曜日

発行所
福島民報社
福島市太田町13-17
(郵便番号960-8602)
電話代表 (024) 531-4111
編集局531-4122 広告局531-4153
事業局531-4173 販売局531-4175
購読のお申し込み
0120-373437



東北最長となる東北中央自動車道栗子トンネル(仮称)。貫通点を示す白線上で、山形県側を向き万歳する佐藤知事(左)ら



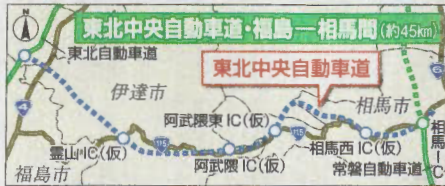
貫通点で、本県側を向き万歳する(右から)佐藤知事、吉村山形県知事、亀岡復興政務官、小池局長、小林市長、安部米沢市長

東北中央道

栗子トンネル貫通

東北最長8972m
全国で5番目
福島と山形つなぐ
29年度開通へ

国土交通省が東北中央自動車道の福島ジャンクション(JCT)米沢インターチェンジ(IC)間に建設している総延長八千九百七十二メートルの栗子トンネル(仮称)が二十一日、貫通した。道路のトンネルでは東北で最長、全国五番目の長さ。現地で福島、山形両県の関係者らが「通り初め」を行い、大きな経済効果をもたらす平成二十九年の同区間開通に期待を寄せた。(27面に関連記事)



栗子トンネルは平成二十一年八月に掘削を開始し、貫通に約四年七カ月を要する大工事

貫通式は福島、山形両県境に位置するトンネル内の貫通点を挟み、それぞれ行われた。計約三百七十人が出席した。本県側では亀岡復興政務官(衆院本県1区)や菅家一郎衆院議員(本県4区)、佐藤雄平知事らが発破ボタンを押した。

貫通後は両県側から、貫通点を自指して歩いた。亀岡復興政務官と佐藤知事、小林香福島市長が、山形県側から歩いてきた吉村米子山形県知事、安部三太郎米沢市長、小池剛国土交通省東北地方整備局長の三人と、白線で示された貫通点上で合流した。本県側を向いて万歳した後、山

福島JCT米沢IC間約二十八キロは十九年度の供用開始を目指している。開通後は無料開放され、所要時間の短縮による経済活性化や交流人口拡大が期待される。栗子トンネルは無料通行のトンネルで全国最長となる。

東北中央道は相馬市を起点とし、福島、米沢、山形、新庄などの各市を經由して、秋田県横手市で秋田自動車道に連結する総延長約二百六十八キロの高規格幹線道路。一部区間は開通している。福島、相馬間約四十五キロは自動車専用道路で、平成三十二年の工事完了を目指している。全線開通すれば本県と秋田、山形両県の物流が活発になるなど経済波及効果が期待されている。

形県側を向いて再び万歳した。トンネル内で貫通祝賀式が行われた。根本匠復興相(衆院本県2区)は「最終的に東北中央道は相馬市から秋田県までつながる。常磐、東北の両自動車道とも接続される。広域連携が容易になり、被災地の復興に貢献できる」と述べた。佐藤知事は「東日本大震災を経験し、災害に強い道路網の整備の重要性を実感した。福島、山形両県の交流の扉がさらに大きく開いた。吉村知事は「復興道半ばの両県にとって明るい話題だ」と歓迎している。

貫通式は福島、山形両県境に位置するトンネル内の貫通点を挟み、それぞれ行われた。計約三百七十人が出席した。本県側では亀岡復興政務官(衆院本県1区)や菅家一郎衆院議員(本県4区)、佐藤雄平知事らが発破ボタンを押した。

貫通後は両県側から、貫通点を自指して歩いた。亀岡復興政務官と佐藤知事、小林香福島市長が、山形県側から歩いてきた吉村米子山形県知事、安部三太郎米沢市長、小池剛国土交通省東北地方整備局長の三人と、白線で示された貫通点上で合流した。本県側を向いて万歳した後、山

難工事乗り越え万感

栗子トンネル貫通

二十二日貫通した東北中央自動車道の栗子トンネル(仮称)の掘削工事は難航を極めた。国土交通省管城国道事務所相馬出張所長

建設監督官務めた土田優さん(管城国道事務所 相馬出張所長)

復興後押し願

土田さんは栗子トンネル内で行われた貫通式と貫通祝賀式に出席した。山形県新庄市出身



難工事を乗り越え栗子トンネルの貫通を喜ぶ土田さん

の土田優(まさひろ)さんは東日本大震災と東京電力福島第一原発事故発生後二年半にわたり現場の建設監督官を務めた。大量の湧き水に悩まされ、壁面が崩落する危険性も出た。復興に向け早期開通を目指す県民の期待を背に、知恵を絞り困難を乗り越えた。

で平成二十三年七月、国が直轄で工事を進める栗子トンネルの建設監督官に就いた。忘れられない出来事がある。地元住民向けに開いた工事説明会だ。福島市大笹生の農家の男性から声を掛けられた。原発事故の影響で、果物の売れ行きが落ちたという。「新しい道路ができれば、山形の各地で販売しやすくなる。そのためにも、トンネルを早く完成させてほしい」と。

土田さんは、原発事故の影響の大きさを知り、がくせんとした。栗子トンネルの貫通の工期は二十五年年度末だ。「福島復興のため、必ず工期内に完了させる」と誓った。

しかし、福島側の現場では、湧き水が掘削の予定を狂わせた。崩落を防ぐため壁面に打ち込んだ鋼製のロックボルトの穴から、一時間に二百二十トンの泥流があふれ出る。工事は度々、中断した。水の浄化装置を稼働させ、排水溝を通してトンネルの外に流すよう手を打った。

山形側では、掘削地点から山頂までの距離が六百メートルを超える場所がある。トンネルを押しつぶそうとする圧力が高まり、壁面に吹き付けたコンクリートが複数箇所で割れた。目標とする二十五年度内の貫通が危ぶまれた。土田さんはくじけない。壁面の鋼製の枠を二重に補強し、昼夜を問わず掘り進めた。

相馬出張所長に異動したのは、工期内完了のめどが立った今年一月。現在は国の復興支援道路に位置付けられている「相馬福島道路」の建設工事を担当している。「道路建設を通して、福島地域再生に直接携わることが誇り。困難に直面しても諦めず、県民のために力を尽くす」と目を輝かせた。

祝賀式出席の行政関係者ら

早期開通誓い合う

貫通祝賀式であり、道福島-米沢間の早期につに立った行政関係者、開通に向けた取り組みを強化すると誓った。「東北中央道福島」

樽みこしで祝う 福島・中野小児童ら



樽みこしを担いで登場した中野小の児童

貫通式では、福島市の中野小と米沢市の方世小の児童がそれぞれ樽(たる)みこしを担いで登場した。中野小の児童は約十人が参加した。威勢のいい「わっしょい」の掛け声に合わせ、元気に走り回り、トンネルの貫通を祝った。

米沢間の開通目標を二十九年から少しでも前倒しできるような力を尽くしたい」と強調した。小林香福島市長は「トンネル貫通は大きな一歩だ。(東北中央道が)開通すれば南北の活性化に向け、効果は計り知れない」、安部三十郎米沢市長は「開通によって福島、米沢両市の距離感が縮まる。これまで以上に親しい関係になれるだろう」と期待した。経済団体の代表からも早期開通を願う声が上がった。渡辺博美福島商工会議所会頭は「福島、米沢両市の経済的な結び付きを強め、共に発展したい」と述べた。農産物販路拡大推進協議会会長は「昭和四十一年に現在の一三号国道が完成し、山形県から飯坂温泉に多くの宿泊者が来るようになった。トンネル自体が観光資源になってほしい」と祈った。

発行所 福島市柳町4-29
郵便番号 960-8648
福島民友新聞社
電話代表(024)523-1191
編集局(024)523-1390
販売局(024)523-1472
振替口座 02180-8-5070
©福島民友新聞社 2014

福島民友

THE FUKUSHIMA MINYU

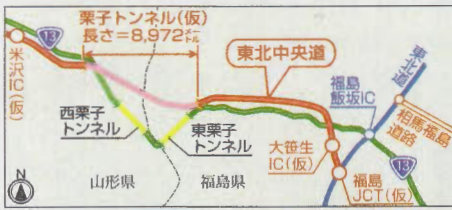
第39419号(日刊)
2014年(平成26年)
3月23日(日曜日)



東北中央道・栗子トンネルの貫通を祝い万歳三唱する関係者=22日午後

栗子トンネル貫通

東北中央道 17年度開通へ前進



東北中央道福島 米沢間
に建設中の栗子トンネル
(仮称、8972m)が22日、
貫通し、2017(平成29)
年度開通に向けて大きく前
進した。現地では式典が行

われ、関係者の万歳の声がか
響いた。(4面に関連記事)
福島河川国道事務所によ
ると、県境をまたぐ同トン
ネルは09年、福島市飯坂町
と山形県米沢市の双方から
掘削を開始。完成すれば東
北最長、全国でも5番目、
新直轄方式による無料道路
では日本一の長さとなる。
両市を結ぶ高速道路は経
済効果への期待に加え、原
発事故に伴う避難者の行き
来で重要度を増している。
開通すれば両市間は現在の
約40分から約20分に短縮さ
れる。冬場の危険度も抑えら

栗子トンネル貫通で式典

みこし担ぎ通り初め

福島市と山形県米沢市を 通祝賀式が行われ、関係者
結ぶ「東北中央自動車道 栗子トンネル」がこれまでの工事の無事に
「ネル」（仮称）が貫通した 感謝し、一日も早い完成を
22日、現地では貫通式と貫 願った。【一面に本記】



みこしを担ぎ、貫通点を練り歩く中野小の児童たち

式典には両市をはじめ、
国、福島、山形両県の関係
者ら約3,500人が出席。貫
通式では亀岡偉民復興政務
官（衆院福島1区）、佐藤
雄平知事、小林香福島市長
らがボタンを押すと、トン
ネルは無事貫通した。

福島市側から5〜40歳
入った貫通点では、福島
米沢両側から関係者が通り



トンネルが無事貫通し、貫通点で万歳を
三唱する関係者

初めを行い、地元の中野小
児童も元気にたるみこしを
担いで貫通を祝した。
祝賀会では、小林福島市

長、安部三十
郎米沢市長が
「福島からの
避難者が多
く、両市の関
係は深くなっ
ている。道路
の貫通で両市
が一層親しく
なり、共に発
展していきた
い」などとあ
いさ。根本
匠復興相（衆
院福島2区）、